

第3回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）（施行）

日時 令和4年（2022年）8月25日（木）15時10分から17時00分まで

場所 笛田リサイクルセンター 2階

出席 橋詰会長、亀山副会長、浅川委員、芝田委員、大道委員、保坂委員、奴田委員、田子委員、
牧田委員

（※橋詰会長、奴田委員、田子委員以外は、オンライン出席）

<事務局>

環境部 能條部長、不破次長

ごみ減量対策課 中澤担当課長、太田課長補佐、石井環境指導監、藤田担当係長、奥村職員

傍聴者 なし

議題（1） 事業系一般廃棄物処理手数料の改定について

事務局から資料1 事業系一般廃棄物処理手数料（植木剪定材以外のもの）の改定について説明を行い、審議を行いました。

芝田委員：議論の前提として、事務局の目指している方向性について確認させてください。資料では一体化する場合の課題を提示されていますが、現行の手数料は一体化していないけれど、今後一体化していくために課題を解決していくという方向性でしょうか。処理手数料を処理原価相当で設定しようとする、一体化しない方が実態に近い形になるかと思えます。

不破次長：現状の植木剪定材と事業系可燃ごみ（植木剪定材以外のもの）の処理経費は、大きく乖離が出ているため、一体化する場合としない場合の2つの案を示しています。一つは、令和6年度を目標に植木剪定材以外のものの処理手数料を処理原価相当額の70%まで改定を行い、事業系可燃ごみ資源化の契約が令和4年度から5年間の長期継続契約となっているため、当面は一体化せずに、契約終了の令和9年度頃に改めて一体化を含めた検討を行うというものです。もう一つは、令和6年度を目標に事業系可燃ごみの処理手数料を一体化した平均額に改定を行い、植木剪定材の処理手数料は経過措置を設けて令和8年度から一体化した平均額に改定しようとするものです。

芝田委員：将来的に一体化の方向で検討していきたいということによろしいでしょうか。

不破次長：令和6年度に植木剪定材以外の処理手数料を改定する際に一体化しない形で検討する方が良いと考えています。

芝田委員：令和6年度以降の将来的な方向性として一体化を検討したいという御希望でよろしいでしょうか。

不破次長：現時点では一体化を目指しているというわけではなく、今後の委託料の単価を参考にして、将来的に一体化するかどうかについて考えていきたいと思っております。

芝田委員：御説明を受けて、事務局としては一体化を目指しているように感じたので質問いたしました。一体化するべきか否かについては、特段不都合が無ければ一体化しない方が実態に即した処理原価相当の処理手数料を設定できると思います。一体化しない場合に課題はあるのでしょうか。

不破次長：鎌倉市の現在の事業系可燃ごみの処理経費は、10kg 当たり 560 円程度となります。東京都などの近隣自治体を調査したところ現状一番高い処理手数料は 10kg 当たり 430 円ということで、10 kg 当たり 560 円の処理手数料を設定して、処理経費の 100% を徴収することが受け入れられるかが課題と考えております。今回は処理経費の 70%程度 の 10kg 当たり 400 円程度を設定できればと考えております。現在は、植木剪定材と事業系可燃ごみの処理経費に乖離がありますが、今後経費の乖離がなくなるようであれば将来的に一体化をすることも視野に入れて検討できればと考えております。

能條部長：補足をさせていただきます。市としては、事業系の処理手数料について、事業者の処理責任ということで 100%を徴収していきたいという考えがあります。植木剪定材については、100%を徴収できるよう処理手数料の改定を前回御審議いただいたところですが、植木剪定材以外のものについても 100%を徴収するために改定をすると日本一高額な処理手数料となってしまいます。急激な値上げは、事業者の負担が非常に大きいと考えています。急激な値上げを避け、事業者の負担を軽減する方法として、一体化という案を考えてみました。一体化をした場合、処理単価が抑えられ、処理単価が 10kg あたり 350 円程度となり、他市町村と比較してもそれほど高額ではありませんが、一体化した場合には植木剪定材の処理事業者の負担となり、結局は排出者である寺社や市民が負担するような構造になってしまうので一体化については非常に慎重な議論が必要だろうと考えております。100%の徴収を目標にしていますが、現時点で一体化せずに 100%を徴収するために改定するとかなり事業者負担がかかるということ、一体化する場合には公平性に問題もあり、非常に慎重な議論が必要だと考えます。資源化処理経費は今後徐々に下がってくる可能性もあるため資源化処理経費を見据えながら、改めて一体化の議論をしていただきたいと思います。今回の改定では一体化をせずに、少しでも処理原価に近づけるよう、目安として処理原価の 70%程度の 10kg あたり 400 円という金額を提示させていただきました。

浅川委員：同じ資源化といっても、メタン発酵と現在の植木剪定材の資源化方法では、質的にかなり違う資源化方法となる気がします。メタン発酵は、有機物であれば幅広く資源化が可能ということかと思いますが、処理経費も含めて考えるとあまり良い資源化方法ではないという気がします。将来的にもっと資源化方法に幅が広がってくる可能性もあると思います。植木剪定材の資源化方法については、現在の比較的安価な処理費用で資源化し、鎌倉で排出された植木剪定材をコンポスト化して鎌倉市民に配布し鎌倉で利用するという循環が出来上がっていると聞いていますので、良い

資源化方法であると感じます。せっかく地域循環の資源化がありながら、メタン発酵に1トン当たり5万円も出すというのはもったいないと思います。将来的に地域で循環することが難しくなれば、メタン発酵のような資源化方法も必要になってくるかもしれませんが、資源化の在り方としては、現在の植木剪定材のやり方を大事にすべきではないかと感じました。

亀山委員：今回の説明は、処理経費の比較のみとなっていますが、処理方法も含めて説明いただいた方が本日の議論にとっては有益だったのではないかと思います。一体化するというので、せっかく今まで細かく分別していたものを一緒に出すことになると、収集運搬の部分についても混乱されるのではないかと思います。結論としては、コスト面での判断ではなく、今の鎌倉らしいやり方というものを大事にしていただけたら良いと思います。

牧田委員：私も鎌倉の現状の植木剪定材の資源化の在り方は一つの成功事例だと思っています。事業者側からの意見として、処理手数料が一気に上がってしまうというのは、非常にダメージがあります。提示されている処理単価というのはメタン発酵に移行した場合の処理経費であって、メタン発酵ありきで処理手数料を設定するのではなく資源化方法も含めてもう少し検討ができないのかと考えてしまいます。一体化したら価格が下がるということは根本的な問題解決にはならないと思います。東京の430円は鎌倉とは違う処理方法だと思いますが、鎌倉でももう少し処理単価が安くなる資源化ができないかという検討をしていただければ良いと思います。メタン発酵の資源化方法ありきで一体化したら、この金額になりますという提示だと議論する意味がないような気がします。

橋詰会長：収集方法や処理方法が違う中で経費に乖離があるのは当たり前で、それぞれの処理経費を下げる努力が重要だという意見があったかと思っています。植木剪定材と植木剪定材以外のものの処理経費が近ければ一体化した方が、市として効率的な面もあり、加えて、事業者の負担をなるべく軽減したいという事務局の考えもわかります。当然、高い処理単価をいかに下げられるかを考えると、その処理方法を検討するという議論があるかもしれないと感じました。

今回は一体化を中心に議論をしていただきましたが、次回は金額も含めた議論をしたいと伺っていますので、議題1については終了いたします。

報 告 (1) 戸別収集について

事務局から資料2-1~4 戸別収集について説明を行いました。

浅川委員：資料2-1の3(2)のコストについての記述の中で、市に帰属しているクリーンステーションの売り払いによる歳入確保についてのもう少し具体的な説明と、もしわかるならば具体的にどのくらいの個数があって、どのくらいの歳入確保に繋がるものか教えていただけますか。

中澤担当課長：市に帰属しているクリーンステーションというのはごみの集積場所のことで、例えば、8区画や10区画の戸建ての住宅を整備する際に、1ヶ所3平米程度のごみの集

積場所を作り、市に帰属することと開発の条例に定めています。帰属のクリーンステーションは、市内に約 200 箇所程度あります。本市で売り払いした場合の収入についてはまだ試算ができていない状態ですが、ヒアリングを行った東京都東久留米市では、全てが売却できるわけではないですが、8000 万円ぐらいの収入を得たとのことです。

浅川委員：住宅等を建設する際にクリーンステーションを市の指導で設置させ、市の帰属としていたものを使用しなくなったことで売却して市の収入になるものなのでしょうか。

中澤担当課長：無償で帰属されたステーションをどのようにして有償で売却するかということですが、具体的な方法や法的な整理については今後調査をしてみたいです。直近で戸別収集を始めた自治体は、そのような方法で歳入の確保を行ったとのことでした。

牧田委員：経費のことを伺います。戸別収集開始前の経費と比較して 2.5 倍というざっくりとした金額が示されていますが、増額分について市民に負担をしていただくことになるという解釈でよろしいですか。

中澤担当課長：今回提示している金額については平成 27 年 8 月に徴取した見積金額となっています。現在の家庭系ごみは、平成 27 年と比較し約 2000 t 近く減量しており、適切な車両台数や人数、地図割を改めて算出し、現状に合った見積を徴取しようと考えております。2.5 倍の増額のままだと、戸別収集事業は実現できないと考えておりますので、先行自治体の経費削減の方法を参考にし、現状のごみ量にあった収集回数の見直しを行うなどできる限り経費削減の努力をしていきます。削減策を行った上で、戸別収集前の収集経費よりも増額する分については、市民の方々に負担いただくような形になるかと思っております。

牧田委員：今の状況を確認して、もう一度見積金額を徴取し経費算出して、他市と比較しながら見直していただくという理解をしましたが、ごみの収集料金あるいはごみ袋の値段が変わるとなると、やはり市民の理解が非常に大事になってくると思っております。以前の全員協議会でも、経費削減の検討や市民の一層の理解を得る必要があるということで実現しなかった経緯がありますので、どういう形で進めていけば実現ができるかという検証をする必要があると思っております。

中澤担当課長：増額部分の市民負担について、現段階では有料袋の値段を値上げするという事は考えておりません。

橋詰会長：税金ということですか。

中澤担当課長：費用については税金で賄われる形となりますが、増額となる部分については、有料袋の増額により対応するわけではなく、市の全体経費の中でやりくりしていくことになるかと考えています。

大道委員：前回理解が得られなかったということですが、戸別収集を開始した自治体も増えてきていますので、他市の戸別収集のメリットについて市民の方に伝えていくことが良いと思っております。例えば、自分の責任でごみを個別に出すことによってごみのさらなる減量に繋がるということ、クリーンステーションの周辺の方々からは、まとめてごみを出すとカラスが集まってしまうけれど、戸別収集にすることでカラス被害

が少なくなったという声も聞いています。また、クリーンステーション収集の場合は、他からごみを持ってきて捨ててしまうという被害もあるとのことで、戸別収集にすることで不法投棄も削減できるかと思います。地域の環境美化・ごみの減量に繋がるというメリットの部分の説明したら良いと思います。また、現状はネットボックスなどを用意して周辺の住民などで管理しているかと思いますが、戸別ではそれぞれの家でごみの容器を用意してもらうことになると思います。市からごみの容器の案内や戸別収集になった際のごみの出し方も案内していただくと理解が進むのではないかと思います。

保坂委員：集合住宅の場合は、今まで通りクリーンステーションを継続していくということになるかと思いますが。集合住宅の場合は、戸別収集のメリットを享受できないと感じます。有料袋の値段が変わらなければ気づかないかもしれませんが、戸別収集が導入されたら税金がかなり戸別収集に使われるということが気になる方もいると思います。集合住宅に対して何か配慮することが可能であればお伺いしたいと思います。また、経費面では、先行自治体の小平市や武蔵野市は平地が多いようなイメージがあり、鎌倉の地形とは異なるのでもう少し経費がかかってくるような気がします。集合住宅に住む市民としては、戸別収集のメリットがあるのか、戸別収集の経費面の不安がありますが、そこについていかがでしょうか。

中澤担当課長：集合住宅にお住まいの方に対するメリットについては、なかなか難しいところです。単品目の戸別収集では、既存のクリーンステーションを継続して使用することになります。仮に全品目を戸別収集にした場合は、現状歩道や道路にあるクリーンステーションはなくなり、通勤通学時や交通面での安全性を確保できるので、市民全体のメリットになるのではないかと考えます。

田子委員：戸別収集は鎌倉山や山ノ内でモデル地区実施しましたが、実現することは非常に大変なことです。戸別収集にもいろいろな方法があり、燃やすごみを戸別収集にして、他の品目はクリーンステーションに捨てるという単品目の場合は、クリーンステーションを継続して使用することになり、クリーンステーションを置く敷地の問題が継続します。1つのクリーンステーションに対して、40世帯が使用しているところもあり、日常でもたまにあふれていることもあり、年末年始はもっとごみの量が増えてしまうところもあります。ごみが溢れてしまい、車の通行の面で危ないところもあります。私の地区は、ネットボックスの費用は町内会と使用者で負担をしていて、町内会でクリーンステーションの管理等を行っています。ごみが溢れたときや、クリーンステーションで問題が起こると町内会長として確認して欲しいという連絡もよくあります。また、クリーンステーションのものを持ち去りして商売している人もいれば、事業者が捨てて行ってしまうこともあります。そのような問題を解決するには、戸別収集が良いと思います。鎌倉は谷戸などが多い地域なので、収集経費は高くなってしまいますが、収集品目や収集頻度などを鎌倉にあった方法を検討していただいて実現していただければありがたいと思います。

橋詰会長：今回の戸別収集の検討では、前回と違う点として、エネルギーについても考える必要があると思います。戸別収集にすることでエネルギーとしてはどうなのか、CO₂

の発生はどうかという点も検討要素として入れていただきたいと思います。次回以降も御審議いただくことになるかと思っておりますので、報告事項1については終了いたします。

報 告 (2) ごみ処理基本計画アクションプログラムについて

事務局から資料3 令和3年度(2021年度)ごみ処理基本計画アクションプログラム(実績)及び資料4 令和4年度(2022年度)ごみ処理基本計画アクションプログラムについて報告を行いました。

橋詰会長：今年度もアクションプログラムに沿って重点的に進めたいという理解をいたしました。

そ の 他

事務局から鎌倉プラごみゼロウィークの紹介、次回の審議会の日程の説明を行いました。

奴田委員：プラごみゼロという話がありましたが、プラごみゼロというのはいないことで、資源化できるように分別方法について周知することが大事だと思います。お弁当などあらゆるものがプラスチックの容器を使用していて、中には過剰な包装をしているものもあります。行政と事業者が協力していただいて簡易的な包装にするなどの取組をしていただくと良いと思います。また、使用した市民がプラスチック容器などをきちんと容器包装プラスチックに分別するなど、広報ツールを活用して、分別の周知を徹底していただきたいと思います。私の家では実践していますが、分別品目に合わせてそれぞれ分別ボックスを用意するという分別方法もあります。

能條部長：おっしゃるとおり、生活のあらゆるところでプラスチックが使われていますので、今すぐにプラごみをゼロにすることは難しいですが、特に使い捨てプラスチックをできる限りゼロにすることを目標としています。今年度初めての取組として市内の店舗や企業など民間の力を借りて、プラごみゼロウィークを実施することとなりました。マイボトル持参の方に対応していただいている店舗や、自宅から持ってきた容器にお菓子などを入れて持ち帰ることができる取組など、日頃からプラスチックの容器を使用しない取組をされている店舗の紹介や、市の資源化の取組などを広報していきたいと考えております。また、今回市内一斉に啓発事業を行いますので、プラスチックごみの削減の方法や資源化の大切さなども周知し、改めて市民の皆様に協力いただけるよう広報してまいりたいと考えております。

牧田委員：プラごみゼロウィークについて、事業者として是非協力したいと考えております。商工会議所や観光協会、飲食業組合などの事業者の団体に情報をいただいて、事業者の協力を積極的に呼びかけていただければと思います。所管課はどこの課になりますか。

能條部長：環境保全課になります。チラシと申込書を市のホームページとTwitterに掲載しております。店舗名と所在地、取組内容を記載していただいて、市にメールで提出を

お願いいたします。是非参加をお願いいたします。周知につきましては、商工会議所にお伺いをし、8月発行の会報誌に掲載いただきました。また、市内商店街や日頃からプラごみ削減の取組をされている店舗などにできる限り訪問して周知をいたしました。今案内いただいた飲食業組合等にも、今後も周知してまいります。

中澤担当課長：戸別収集についての情報提供として、今回の審議会で報告を行ったことをSNS等で発信していきたいと考えております。審議会の開催風景の写真をSNSでアップすることについて了承いただけますでしょうか。

田子委員：鎌倉市から発信しているということをきちんと明記していただければ問題ないです。市内でも詐欺なども多発しているので、発信方法を配慮いただければと思います。

各委員：了承します。

奴田委員：以前から言っていますが、やはり鎌倉に焼却場は必要だと考えます。鎌倉のごみは鎌倉で燃やさなければ、逗子など他市に迷惑がかかってしまいます。鎌倉には焼却場を建設する場所がないと言われていますが、笛田や深沢、野村総研の跡地など十分な敷地があります。審議会でそのような意見が出たということも周知していただき、検討をしていただきたいです。

橋詰会長：それでは以上を持ちまして、第3回鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会を閉会いたします。ありがとうございました。

<終了>